京城日報

十四日夕刊 (朝夕刊併せて六頁)

本紙定價・廣告料金 [illegible]
發行兼編輯人・印刷人 小川三之助
發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社

◎講和新提議條件

アムステルダム來電＝伯林ターゲスツアイツング紙は曰く『信憑すべき筋より聞く處に依れば交換國は領土不擴張、白耳義及び佛國領土還附並に双方無賠償を基礎條件として更らに講和提議を爲すことに一致したり』(讀賣電報)

◎露重要問題宣言

露國新聞は講和、軍費、國民經濟、土地處分、財政改革、憲法會議、地方自治、民權等現下露國に於ける重要問題に關し長文の宣言書を發表せり(讀賣電報)

◎日米間交換條件

華盛頓に於ける日米間の協商は石井特使の提議せる船舶建造用鐵材供給の交換條件として適當なる日本艦隊を大西洋に轉航せしむることを事實上既に議了せり(讀賣電報)

◎貨客戰時稅改定

四日より當分の中現行日滿聯絡旅客及び手荷物連絡運輸に依る旅客に對し發驛に於いて運賃の外露國政府收入として戰時稅を徴收することに成れり(東京特電)

『附記』從來ハバロフスク及び浦鹽行連絡旅客及び手荷物に對し日本及び滿洲の各發驛に於て露國政府の收入と成るべき戰時稅を徴收し露本國行旅客及び手荷物に對しては著驛にて之れを徴收しつゝありたるを今回本文の通り改正されたるものなり

◎漸く視察の機會を得て
大隈信常氏一行來鮮

前代議士大隈信常、横山章兩氏代議士關和知、櫻井兵五郎、類母木桂吉、原文次郎氏等一行六名は十四日朝關釜連絡船高麗丸にて著釜午前十時三十分發列車にて京城に向へり一行の旅程は京城二泊(都合に依り一泊)の上北行平壤鎭南浦を經て奉天、大連、旅順を視察し引返へして長春に赴き北京に出で京漢鐵道に依り漢口に到り上海より海路歸朝すべく往復四十日の豫定なりと大隈氏が今回朝鮮支那視察を思立ちしは横山氏が朝鮮の鑛山及び上海に於ける電球工場等の事業に關係あり夫等の要件にて朝鮮及び支那に赴く旨を語りしに大隈氏は豫て支那視察の希ありしも今日迄未だ之れを果たすの機會なかりしが大隈老侯の病氣も快復し氏も亦目下閑散の境に在るを幸ひ同行することゝなりたるものにて關、櫻井、類母木氏等も時勢を識するには是非とも支那を知らざる可からずとて行を共にしたる次第にて所屬政黨の內命又は特に調査等の用務を帶べるにあらず但し支那には早稲田大學の關係ある人士と會見せざれば官民各方面の人士と會見するならん依つて政府側には誤解無き樣念達し來れり現に角住かに四十日の短時日に過ぎざれば何事をか爲すの遑あるべき唯支那を一瞥するのみなりと語れり(釜山特電)

◎總督慶州視察

十二日浦項視察後再び慶州に來著柴田旅館に投宿したる長谷川總督一行は十三日午前八時より佛國寺に到り同九時三十分發にて石窟庵に向ひ同所にて晝食を終りて下山午後二時再び柴田旅館に入れり因に當日總督は古物保存費として佛國寺へ金五十圓芬皇寺へ金十圓を寄附したりと(大邱)

▲群山に向ふ　長谷川總督一行は十四日午前十時二十分自動車にて慶州より大邱著少憩後同十時三十分大邱驛發特別列車にて群山に向へり(大邱電報)

◎四年振にて
—朝鮮は實際良い處だ—
宇佐川男爵談

十四日午前八時五十分著列車にて入京せる前東拓總裁宇佐川一正男を途中迄出迎ふ車中談に曰く四年ばかり來て見ない內に朝鮮も益々良く成つた樣だ朝鮮は實際暢氣で宜い此頃內地に居ると何かとこせ〳〵としてやり切れない丁度向きとてはないのだが今は自分も閑だから氣晴らしに出て來たのさ朝鮮は宜いが內地東海道東部方面の風水害は實に慘憺たる者である衣食住物皆な騰りもすると缺乏を訴へる樣な情勢に在るのみならず物價の暴騰には驚かざるを得ない此度の風水害に依つて家屋の倒壞浸水等に依る個人の損害も大したものだが物價騰貴の際之を復舊すると云ふ事は

▲仲々容易の業 ではあるまい倉やなんかの一寸した修繕でも頼まうとすると二百圓や三百圓は直ぐ請求される之れでは餘り商いと言へば其れなら御免を蒙ると職人共が寄り附かない已むを得ず請求通りの經費を支辨しても仲々直ぐはやつて吳れず此れが無い彼れが足りぬと文句を言つて一週間やそこらは直ぐに經つて仕舞ふと云ふ有樣である今回の水害は稻作等には大局から見て何等變化を與へて居ないらしいが其れでも米等の騰は朝來れば

▲一升二十五錢 夕べは二十六錢製調に迄なると二十七錢と云ふ風にごし〳〵と騰げる當然な騰貴でも何でもない只高く成つた高く成つたと言つては遠慮なく上げるのであるそれに野菜の如き水害等の少しも影響して居らぬもの迄大根一本何錢葱一本一錢五厘だと暴利を貪るのだから仕方が無い物價調節等さいくら叫んでも斯んな有樣では實際皆なが品物を買はない樣に成らなければ幾分でも物價の下落する見込はあるまい……

◉日支爲替銀行問題
外資の輸入と支那內陸の開發
臺灣銀行理事 山成喬六氏談(下)

今回北京に赴きたるを幸ひ爰に陸宗輿氏と協定を了したる勸業銀行乃ち日支爲換銀行の件に就き

▲細則に涉りて 交涉を遂げたるが同銀行創立のことは既に同地交通、中國兩銀行と我國の興業、朝鮮、臺灣三銀行と合辨にて資本金を二千萬圓とし第一回拂込額五百萬圓にて相互平等に出資すべく支那政府より許可を得て確立せる計畫なりと雖も首腦者及び重役の人選等に就きて未だ協定を遂げざる爲め成立を遷延し居れり併し之れも今後左して延引することなかるべし同銀行は中日興業會社の如き政事的色彩を以て生れんとするものにあらず

▲全く實業銀行 にして日支實業家の機關たらしめんとするにあり從來支那に於ては實業なるもの在りて少額の金融は彼れに據りて行はれ居れりと雖も近時支那經濟界の狀態は彼れが如き資力の薄弱にして基礎の確實ならざる個人經營の金融機關にては到底時運に應ぜしむるに足らず智識階級の人には既に自覺せるも國民一般は外國人と合辨にては未だ不安の念を去ること能はざる傾向あるを以て今回の勸業銀行は一面には支那國民一般に對し斯かる

▲疑惧の念を除 く可く最も堅實に組織を爲し以て模範を示し將來日支合辨の事業を促進して資本の共通を計り所謂經濟上の親善を企圖せんとするにあり我邦にても維新後の當時に於ては外資輸入に對する國論勃興し徒らに之れが妨害を試みたる節ありしが今日にては北海道製鋼所は英のアームストロングより日佛銀行も佛國の資本と合辨し東洋拓殖會社等の大會社も多く外資の輸入を仰ぎ其他大小會社共に外國の資本に據るもの多く爲に我國の產業

▲發達に裨益し たることは素より世人の知る處なれば支那國民に於ても我國運隆昌の迹に鑑み經濟共通の利便を增進することに努力することあるに於ては日支親善の實現を見し國運挽回して國家の基礎を堅固ならしめ東洋の平和を永久に保持するを得ば支那國民の幸福而已ならず我等日本人に於ても大に意を强くすることを得べし(完)

◦入京せる長岡中將
十四日午前[illegible]

◎全鮮記者大會 第二日

全鮮記者團は十三日夜花月に於ける滿鐵管理局の招宴に列席し席上久保局長の挨拶及び一同代表者長谷川西[illegible]日報社長の謝辭あり盛宴散解第二日目たる十四日は午前九時より各社代表者は朝鮮ホテルに會合諸種の協議をなし正午は朝鮮銀行主催の千代本に於ける午餐會に出席席定まるや美濃部總裁の挨拶に次で山縣セウルプレス社長の謝辭あり散會後午後三時より南山本願寺に於ける故戸叶薰雄氏の追悼會を行ひ就谷朝新社長の弔辭朗讀あり終て夜は千代本に於ける朝鮮郵船、三井物產、東亞煙草三社連合の晩餐會に出席せり

◎新政を悅ばせ度い
徐忠北參與官談

今回商陽郡守より忠北參與官に榮轉し十五日朝出發赴任す可き徐相勉氏を自宅に訪ふ、曰く一體參與官といふものは長官の諮詢機關に過ぎないものであるから、たゞ長官の命令に隨つてやるだけの事である、自分に何にかの意見があるにしても、それをそのまゝ實行させる譯には往かないのである、教育、產業二つに大別してどの方面を先きに奬勵すべきかと、云はれると吾輩は先づ教育を先きに奬勵したいと思ふ、勿論背に腹は替へられない、生活が苦しければ何にも出來ないものではあるけれども田舍の農民といふものは精出して働きさへすれば食だけの事に心配はない、それに教育のない者は全く仕樣がないのであるから…食て計りゐて教育のないものは禽獸と異なるところが少しもないのである、商陽郡守時代の經驗から云つて見ると、どうも官廳と人民の間に誤解が多い、自分等のためを思うてやつてやる事を、違つた意味で取るから困る、詮じ詰めれば皆教育の足りないところから來る誤解だ。兎に角吾輩の意見としては最初に教育を普及させて上意を下達し、下意を上達させて忠北の民をして誤解なく心から新政を喜ばせたいと思ふ

◎總監一行下仁

山縣政務總監各部長官局長一行二十名は十四日午前八時五十三分南大門驛發列車にて下仁せり

◎都督通過期

大演習陪觀の爲め朝鮮線通過東上すべき中村關東都督は多分十六日南大門驛通過の事となる可しと

◎宇佐川男入京

前東拓總裁宇佐川一正男は夫人同伴十四日午前八時五十分南大門驛著列車にて入京齋藤副官々邸に入れり

人事消息

▲齋藤少將　十四日朝出發內地へ
▲山本逵雄氏一行三名　十四日朝出發平壤へ
▲岡本要吉氏(開城新報社長)　十三日入京
▲徐相勉氏(忠北參與官)　十五日朝出發赴任
▲矢島音次氏(黃海道一部長)　十四日午後退京赴任
▲小山松吉氏(長崎控訴院檢事長)　十四日午後入京天眞樓へ
▲池田寅治郎氏(司法省參事官)　同上
▲名取忠愛氏(甲府市長)　一行八名十四日午前仁川へ
▲白井勘助氏(東京辯護士)　十四日午後入京巴城館へ
▲永田六三郎(京都市二務課長)　十四日午前入京巴城館
▲安田浩一氏(奈良市二務課長)　十四日午後入京巴城館へ
▲上田敬治氏(神戶京東亞製紙株式會社長)　十四日入京浦尾へ
▲福井勝吉氏(東京帝國製麻株式會社專務取締役)　十四日入京山本旅館へ
▲石川重男氏(露都駐在財務官)　十四日午前入京浦尾旅館へ
▲今井健六氏(鹿兒島市水道課長)　十四日午前入京巴城館へ

□老虎灘行
大連 勝村生

◇八日王子國民新聞記者、山崎同社長秘書と共に蘇峰先生のお供をして、午前十時ヤマトホテルを出で、滿鐵社員柴田氏の案內にて中央試驗所を訪ひ、高粱酒の釀造、製絲、耐火煉瓦、硝子、パルプ、製紙、其他南滿洲に於ける殖產工業に關する調査分析及び標本等を一覽したる後、西公園のアカシヤの並木の間を自動車は快よく驅せて、午前十一時老虎灘に著く。

◇五日大連に著きたる以來、連日の天烈風、早くも冬に入りけりと思ひ居たりしが、此の日は春日遲々たる如く、晴天無風、碧漫たる渤海の水、杳として涯なく、断崖の邊々に大輪の野菊小春の光に飄然せり

◇一行は草の實のこぼれ落つる小徑を傳ひて千勝館の離座敷に入り、緣側に椅子を並べて脊く靜かなる海と、嶮しき斷崖絕壁の眺めを賞す。折柄、干潮にて岸に近き隱れ礁現はれ、水平線の奥は更に靜かにして、遠く望めども帆の影さへも目に入らず。

◇離れの亭の下には、海水を湛へたる五六十坪の生洲あり、巨大なる鯛、鰈、鱸など海草の間に出沒し、或は躍り或は鱗へ、悠々自適する狀、水族館等に於て見るが如き不自然のものにあらず、吾等の卓の肴は此の中に泳ぎ居るなり。

◇欄の渚に立てば、海草の森の間を大小魚族の群遊する狀、明らかに看得るまでに水は澄み透れり、亭の欄干に倚り、水天一色の秋碧を望み又は削立する嶮崖の奇なるを賞し、蘇峰先生は筆を執りて

老o虎o灘o頭o日o衛o陰o崖o壁o立o亂o礁o横o
秋o高o渤o海o明o如o鏡o幾o隊o游o魚o水o底o看o

と紙片に書付けて示さる、遣を碧海の奥を眺め俯して崖下の渚汀を見、且つ打眺めつゝ、先生の詩を口誦す。

◇海水より直ちに膳に移されたる鮮魚の料理にて一盞を傾け、食後更に海と山との秋を賞し午後一時亭を立ち出づれば、此の家の園丁ダリヤ、コスモス、カーネーション等を大束にして、自動車の中に運び入れてありたり

◇晴れたる海と澄み切つたる空との間の山を越へ、北へ一里半、黃葉せるポプラの並木の中を大連市に引還へし、滿鐵本社を訪ひ國澤理事長、樺山、川村各理事、上田秘書其他の人々と會見し、大連民政署を訪ひそれより鈴木油房等を見たり。

左甚五郎
第五十五席
桃川如燕口演　浪上義三郎速記

狩野守信は父の家を相續して公儀の御畫師となりましたが、甚五郎は此の人に從いて畫を學び下書は專ら守信が描いたものでございます、然て見ると甚五郎は彫刻ばかりでなく畫を能く描いたものでありましたが、甚五郎の評判宜しく或日三軒町の棟梁政右衞門の弟子の與吉といふ者が來て、甚五郎に仕事のことに就て種々教へを受けて居りまする處へ、年齡四十格好の男が縞の衣類に縮の羽織、白足袋に草履穿き 男『少々伺ひます』居合した與吉が 與『何か御用ですか』 男『甚五郎親方のお宅は此方で』 與『手前でげす、何に御用で』 男『あゝ左樣でございますか、只鳥渡お伺ひに出ましたので、只今申上げます』それだけのことで歸つて行つたから訝しな男だと跡見の方へ出て行く後姿を見て居る 男『エー姐さん此家です、判りました』 女『オヤ然うかね』と粹な女が路次を入つて其男と與に又々入つて來た 女『エー棟梁御機嫌よう……』 與『棟梁お客樣で』 甚『何だ、お客樣だと』與に居た甚五郎、お客樣と云はれて 甚『何だお客樣は、何處の人だ』 與『大變な素敵も無い美い女が還つて來ました』 甚『冗談云ふな』 與『今來て立つて居ますぜ』甚五郎はヒョイと見ると女が立つて居る、何處かで見た樣な女だと思つて居ると 女『誠に御無沙汰をいたしまして毎時御繁昌で』 甚『エー何誰樣か逢お見外れ申しましたが』 女『棟梁お見忘れ申したなぞと厭だやアありませんが、姿屋吉兵衞方の七越でございます』と云はれて 甚『ツーム、然う〳〵、姿屋の華魁だつたね』同じ長家の經師の松兵衞さ仕立屋の養吉に誘はれて姿屋で一晩遊んだが、然し馴染もつけないで裏も返さん樣な譯、一夜遊びに行つて寢そびれて暇を棒へて歸つて來たことがありましただ 甚『成程、素人の姿になつてしまつたから判らなかつたが、まアお上んなさい』といふと若衆の留吉が 留『エー棟梁、手前は姿屋の若い者で』 甚『ウム』 留『エー少々棟梁にお願ひがあつて華魁の供をして參りましたのでございますが、詳しい話しは又七越華魁からお聞きなすつて』 甚『ウム、華魁、こんな穢い處へ何の用があつて來たので』 七『洵に棟梁相濟みませんが、妾も今は自儘になりました年の明けた身體ですから、おしつけな申し樣なことではございますが身の納りをつけたいと思つて出ましたので、伺つて見れば能く判りまして、其の時のお話しには俺には嫁が無い獨身者だと被仰つたが、あの廓へお出になつてお客樣は皆な一人だ〳〵と被仰るけれど、お內儀さんもあればお妾さんもあるといふことが後で判ります樣なことで、棟梁には種々探つて見たが全くお內儀さんは無い樣で、それでもお宅へ行つて見なけりやア判らないと出て參りましたが、成程御獨身の樣で洵に妾の樣な者ですけれども願へますことなら棟梁の此の組御にして頂きたいと存じまして人頼みより直接にお願ひした方が宜いと思ひまして留さんを伴れて出ましたのでございますが如何なものでございませう』 甚『それは華魁叶けねえ、俺が男が好いとか金があると云ふなら兎も角も、見た通り家だつて借りて居る始末、鍋物も無ければ金も無い、別にお前の方で見込みは無えぢやアねえか、華魁なんぞの身體はぞんな宜い處へでも行けるぢやアねえか』 七『そんなことを被仰ないで願へるなら何うぞ姐御にして貰ひたいと思つて出ましたのでございます』 甚『先づ何であつても腰掛けぢやア話しが出來ねえ此方へ上つて悠然話しなしませう』と甚五郎は七越を座敷へ上げました。

曆

十月十六日 九星 舊九月一日 辛卯 本命六白 乾 取 先負

[illegible]

精米麥機
運轉安樂精白迅速 信用試方長期月賦 貸附す賣物如試驗を乞ふ
△詳細圖入說明書は申込次第送呈
製造元 大阪西區市岡町 東記物產部

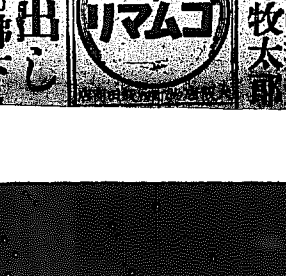
下落の織物
○第二回冬物昨今どし〳〵著荷しつゝあり
友仙もすり一尺參拾五錢より
大市 龍山元町電四二八番
植西吳服店

大阪府堺市 釀造發賣元 肥塚源次郎

冷卸發賣

外科一般 皮膚科 泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會前
安部醫院 電話四一九番

京城本町一丁目 特約販賣店 佐藤牧太郎



M印 ゴムマリ

冬物賣出し
軍隊及鐵道局拂下品
茶褐外套毛布防寒シャツヅボン手袋靴下人夫用古服類
既製品及中古洋服
△詰衿折衿洋服オーバーコート二重廻し人コート長トンビ大頭套小供マント類
○男女御衣裳一式
△特に上等御召の中古御婦人方澤山取揃へてあります
龍山元町三丁目電話百〇五番
衣服商 金子與市商店 振替京城三八六

金銀箔商
黃銅鈴齒科用金箔 無地金屛風・押紙
右各種製造發賣
京都市御幸町御池南入
堀至善堂 振替貯金大阪六四四番

空中文明開拓者の背後に潜む婦人の力 =上=

一身を犠牲にして飛行界のために竭したシャコフスキ大公夫人

陸軍中將 長岡外史氏談

十四日入京巴城館に投宿したる長岡中將は往訪の記者に語る可き、我國婦人の生命とも言ふ可き淑德温順閑雅の德を破つてまでも飛行家たれとは言はぬ、併し世界の飛行界に於ける冒險家の背後には偉しい

▼婦人の力 があつて常に之を支持し增進せしめつゝ有る事の争ふ可らざる事實なるを知るに遂んで我輩は極力婦人の發奮を促さざるを得ないのである婦人の任務は勿論家庭の主婦としての

▼責任を竭 すにあるがさりとて家庭の城廓内にのみ閑籠つて時代の要求に逆行し徒らに退嬰姑息に流れ自らを守るに汲々として居る丈けでは決して美徳と言ふ事は出來ぬ、歐州戰爭勃發以來世界各國は一にも人間二にも人間と言ふ風に人間の枯渇に苦んで居る場合であるから

自然時代は婦人の蹶起を促し

婦人に重大なる負擔を求め婦人をして其生活上にも社會的にも革命を要求しつゝ有る其結果歐州交戰國の高級婦人連が看護婦から小中學校教師になるのは言ふさへ野暮甚しきに至つては食糧品の窮乏を

▼救ふ爲め に自分の畑であらうと他人の畑であらうとそんな事は一切關せず焉で馬鈴薯を植ゑる麥を蒔き付ける中下流社會の婦人に至つては郵便配達から電車煙突掃除等の賤業にまで從事して戰前まで男子が負擔し來つた處を堂々と引受け居ると言ふ狀態で

▼今や時局 の推移と共に銀行重役から會社の支配人其他官衙會社の給仕小使まで婦人の職業を擴張して已惚れ強い男性をして既へに憤害たらしめて居る要するに今回の戰爭の經驗に於て女性と男性の能力に何等優劣の無い事を證明さるゝに至つたが

獨り一般の社會狀態のみならず

飛行界に於ても歐洲に於ける發達の道程は實に婦人の發奮と激勵との獻身的努力とに負ふ處が多い彼の露國に於ける飛行機は非常に不振を極めて居た者であるがシャコフスキ大公夫人は之れを慨じて

▲身を以て 飛行界に投じ戰前には既に宙返りが出來る樣になつたとの事であるが殿下の尊稱を受けつゝ有る大公爵の夫人が身は深閨に育つた妃であり乍ら一身を犠牲にして飛行界の爲めに竭した言ふ事は實に破天荒の如く感ぜられるが然し此の

▼一貴婦人 の努力發奮に依つて露國飛行界は急促の發達を來し開戰前には飛行協會に於て千百ルーブルの財産を有して居たのであつた

◆東宮殿下行啓

皇太子殿下には十四日午後二時華族會館に行啓あらせられ打毬御台覧の後午後四時還啓あらせられたり(東京特電)

何して排水するか

水量增加しつゝある天津の大洪水

沖野工學博士談

◆◆排水工事には二つの方法がある◆◆

道回の天津水害救濟工事の爲め支那へ旅行の途次に在る工學博士沖野忠雄氏一行を車中に訪ふ氏は水害狀況其他に關し語りて曰く

今回の内地に於ける風水害も隨分悲慘なるものだが天津方面の水害はより一層激しいものであるらしい内地に起つた水害は所謂水害丈けの程度ならば大したものではないあれは風害及び海嘯に據る被害が頗る大なるもので家屋の倒壞等は大部分此の風害に基因して居ると謂つてもよい

▣内地の水害は▣

單に工事とか何とかの方面から之を觀察すると左程の問題ではあるまいけれども天津方面の洪水は仲々容易には排水工事が困難だらう何しろ來月末頃にもなつてぐづ〳〵して居ると結氷して仕舞ふと言ふのだから仕方がない而かも元來支那の洪水は毎年毎年起ると云ふ譯のものでもなく長い期間に霖雨が襲來した結果洪水を見る事が多いので仲々急には水が引かぬのである此度の天津洪水の如きも恐らく支那官憲のみならず餘分切かめのである、

▣排水には苦心▣

して堤防の決潰に由つて高所の水を低所へ吐き出さうと云ふ樣な努力は既に試みたけれども仲々減水を見ない許りか却つて上の方からどん〳〵と水を漲らせて水害區域を擴大する樣な事になりはせぬかと思ふ而巳ならずまだ上流から押し寄する水量は益々増大して居る樣な報道があるのだから比較的勾配少き直隸平野の

▣廣濶なる區域▣

に氾濫しつゝある洪水は切斷工事等に由つて所謂洪水の先端が海に達する樣に成ると其の水勢は現下よりも一層急甚となるものである今回の樣な大洪水が斯樣な丈けに其の洪水原因に關しては種々の説があるけれども要するに揚子江と黄河とが連結して白河に通ずる大運河の氾濫であつて黄河の氾濫でない事は明かである、黄河等が氾濫する時になると内地の耕地の總面積位ゐは綫ろに水に成つて仕舞ふ、元來支那の事は漠として分るものぢやない殊に支那人の言ふ事、爲す事は俄かに遊踏し難い今回の水害區域の如きも

▣日本租界一部▣

とも言ふし支那街も含むで居るとも言ふし實際行つて見なければどの位な面積で如何なつて居るのか水害の程度すらも未だ分らずに居る位だ元來此の排水工事には切斷工事に由つて水を高所より低所に排するものと堤防に由り四圍を區切り中の水を喞筒其他に由つて排するものとの二方法があるが此度の天津洪水の如きは喞筒に由つて汲み出す方が適當であり又

▣案外早く解決▣

が付くかも知れぬと思つて居る工事費の如きは土地の調査研究の上でなくては俄かに分るものではないが或る人は最低二十五萬圓位から最高二百萬圓の工事費等と言つて居る、又天津の街は煉瓦造りの外觀頗る宏壯ではあるが支那人の積んだ煉瓦壁の内には往々煉瓦を連結するに石灰等が使用してあるものがある之れは水害に遭ふと石灰が水に溶解する結果建物の下部から崩れかゝる事がある斯んなのが一番危險である嘗て自分がフランスに居た頃ツールに大洪水があつたが

▣其の際の如き▣

此の石灰の混入物に由つて各煉瓦を連結してあつた結果非常な危險を傳へられた事があつたが斯んな事が天津に無ければ幸ひである。自分は嘗て明治四十年頃支那視察に出かけて揚子江の沿岸を調査し京漢鐵道に由つて支那内陸を横ぎつた事がある其の時は樂な旅行だつたが今度は東京から天津迄一路ぶつ通し何處にも立寄らない積りである何しろ彼方の工事は一日一刻を爭つて居るのだから仲々忙がしい

◉大演習參加 飛行機江州へ

大演習參加飛行機十二臺は來る十一月四五日頃所澤より江州に於ける大演習飛行隊根據地に來る由(大阪特電)

◉補助貨の僞造

内地人と鮮人共謀して

慶北金泉憲兵分隊に於ては今回通貨僞造犯として内地人岩代金力郎及び朝鮮人曹正元と稱する兩名を檢擧し目下極めて嚴重に取調中なるが右兩名は巧みに其の筋の目を潜り慶南三浪津及び慶北秋風嶺の山中深く立て籠り十錢二十錢五十錢の補助貨を僞造して黄淵及び秋風嶺方面にて行使せるものゝ如く尚ほ取調べの結果事件は意外に擴大するやも圖り難かるべし(大邱)

◉京都の火事

十三日午前一時京都木津屋橋猪熊東へ入る津村次郎助方より出火し十戸全燒せしが東本願寺附近の事とて混雜を極めたり(大阪特電)

◉大熊二名を傷く

慶南山淸郡生草面坪村里に十月七日午後四時頃一頭の大熊現はれ通行中の李姓女(三〇)草刈中の尹命俊(三〇)の兩名に咬みつきて重輕傷を負はせたる騷ぎに於外巡査憲兵出張所より憲兵駆け付け里民數十名を指揮して同里の筆峯山を捲き狩りして遂に件の熊を發見し五發を射彈して見事に射止たるが熊は一見小牛大にて七十餘貫の體量ある

♣馬の祭

十四日午前八時三十分より訓練院馬術俱樂部にて京城馬術練習所奉祀の相馬

妙見山中村神社分靈奉祀祭執行さる玉串を捧げ居るは鈴木度支部長官なり

◉大隈氏一行歡迎會

大隈信常氏一行は十四日夜入京一二泊の筈に付き城早稲田校友會にては歡迎會開催の打合中なるが場所時日等は未定なるも出席者は豫じめ朝鮮公論社内板橋氏迄申込置かれたしと

◉谷村宮司嚴父 京城神社の谷村宮司の嚴父佐助氏は奈良の別荘に於て六日朝終に死去したるにつき假埋葬に附し追て鄕里伊賀上野に於て本葬を學げる事とし谷村神官は一先つ歸鮮せり尚服喪中の谷村宮司は神社大祭につき特に其筋より除服出仕を命ぜらる由

◉舟橋町懇親會 舟橋町組合にては十六日午後七時より同町裴町三階屋に於て懇親會を催し京城神社の祭典を來觀する筈にて多數來會を希望する由

樂燈とも頌し

前藏相山本達雄氏の一行は入京の序を以つて李王職より同(博物館、動植物園)を觀覽した▲總督府よりの案内役として不破事務官、李王職昌慶苑末松掌苑課長、武藤事務官等で一行は牧山代議士、長島小坂兩前代議士其他數名であつた▲動物園では例の愛嬌者の猩々クンが異述か政見を異にすると云ふ譯でもあるまいが何故か一行を冷遇して檻の前を通懸つた隨行員を片つ端から嚴嚇する▲併し一向手對へがないので俄に檻の上の隅にある白の寢床に、もぐり込で毛布を被つて顏を隠したのは時に取ての愛嬌であつた▲植物園の温室を見た山本氏は東洋第一の大規模なもので あると一同に説明してゐた▲宙合樓の莊大にして古雅なる建物を觀た氏は頻に附近の風色が飾らず裝はざる所に自然の妙味があつて、磊々たる奇巖巨石や蒼鬱たる幽林山谷や淙々たる溪流飛瀑の按排が如何にも東洋風の景趣を現はして殊に此の御建築物に相應はしい事を激賞してゐた▲博物館 特別本館で氏の氣に入つたのは入口にある高さ約一丈もある大鐵佛一千百年前の物で氏は『是は大したもので ある、殆ど血が通つてゐるかと思ふ程神に入つてゐる』と語り綸讃では李不害、李上佐の少さな古畫が氣に入つたらしい▲漿水の噴出する翠寒亭で『一庭花影春留月。滿院松聲夜懸濤。拂水柳花千島點。實扇初開移玉座』と云ふ聯が氣に入つたと見ゐて此の詩を頻りに口吟み乍ら『成程詩の本家丈けあつて場所に相應はしい面白い句だ』と云つたが、今や禁苑の秋闌に、而かも白雲楓林の幽境に處して、空も水も人も總て是れ無韻の詩であつたのである▲氏は衷心欽快に堪ねざるもの〻如く左右を顧みて『何うも君去るに忍びないね』と繰返してゐた

演藝案内

京城明治町 電話二六〇 浪花館 三遊亭圓左一座

東京落語名人會幹事 本日の演題(晴雨不拘毎夜六時開演) 御祝儀三番 新之助 ▲少年落語 左京代 ひも(?)の狢 左之助 ▲滑稽大阪落語 事件(?) 圓輔 ▲奇術及曲藝 天賀小賀 ▲百人坊主 圓枝 ▲廿五孝芝居噺 八段目 圓京 ▲西洋運動の心(?) 大切 曲(天賀小賀) ▲畫生(?) 曲(三遊亭圓左) 落語自家のたわむれ

東京小林商會活動寫眞部一手代理店 米國ユニヴァーサル會社特約 巳川演藝部直營 活動寫眞常設館 有樂館 電話階上五九七番(階下)二〇五番

▲日曜祭日晝夜二回開館 ▲御徳用回數券發賣 ○十月十一日より公開秋季特別大興行 ○實寫スクリーンマガジン第一號 ○人情劇 稻罪 全二卷 ○滑稽金儲け 全二卷 ○ユニヴァーサル會社特作世界的神秘連續大探偵▼第三『電話ノ聲』全十五編三十卷の内、第六編上場(南郷公利、久世春濤説明。)…

○教育史劇 永録曾我物語(全七卷)…

▲寶演連鎖『遠州秋葉山中の塔』

京城壽町 電話五七八番 壽座 喜劇連鎖義士廼家(七回替り)

第一番目 喜劇 道ゆね 第二番目 喜劇 櫻の宮仇討 第三番目 喜劇 袖頭巾

櫻井町 電話八七三 大正館

▲十月十二日より又々三大寫眞提供 ○米國ザ、アイリア、ムソン社製作 ▲日活會社作 ▲滑稽 ▲日活會社 ◎新派悲劇(通俗物語)全三卷 …

○最終編『レッドサークル』全廿八卷の内第十三十四編四卷提供 …

○舊劇 彦根騷動奴の國平 …

本町五丁目 稻荷座 新派喜劇改正美園一行

第一番目 回目替り藝題 新己の罪 全六場 二番目 生人形 全二場

京城本町 電話一〇五〇 壽館

十月十三日四日語り物番組 ▲大阪文樂座淨瑠璃 ▲御祝儀 ▲臣連(?)殿中の段 ▲王の下邸の段 ▲小牧山城中の段 ▲花曙山名屋の段 ▲八郎兵衛鰻谷の段 ▲古屋翠實の段 …

△特等一圓五十錢、一等一圓、二等六十錢、三等三十錢

天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手代理店 電話二三六三七 二三六六 黄金館

十月十二日より二週と見られぬ特別大興行 …

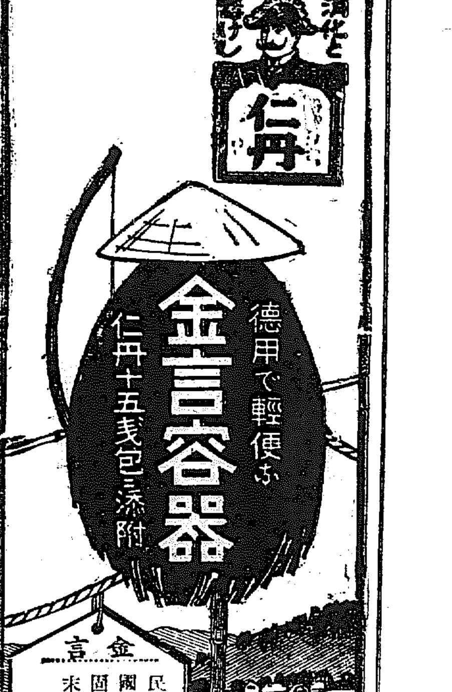
▲新派社會大悲劇『千葉新次』…

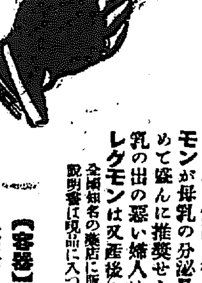
○令孃 …

せきずゐ。コルセツト 大きん玉ナラス器械
京城本町一丁目五一 專門義手足製作所 高野義翠九鈞發賣 電話一〇六

かぜねつに 一番よくきく キナピリン

◉キナピリンは◉感冒◉熱病◉頭痛◉インフルエンザ◉リウマチス◉間歇熱(マラリヤ)等に大効あり
(定價入拾 五包入廿 八包入三十錢 十五包入十 三十二包入壹圓)
大阪市堂島元蜆橋 本舖 髙橋盛大堂藥局
同 心齋橋博勞町 發賣 髙橋盛大堂分店
◉各地到る處の藥店に販賣す




母乳分泌催進の効ある新滋養劑レグモン

レグモンは肺結核、胃腸病者、神經衰弱、其他一般に病中、病後の衰弱に非常に有力な滋養劑として醫學界の信認を得て居りますが近時産科醫はレグモンが母乳の分泌量を增加するに有効なものと認めて盛んに推奬せられて居ります。乳の出の惡い婦人は是非試みて御覽なさい!!レグモンは又産後の衰弱を速かに恢復します。

全國知名の藥店に販賣致居候 說明書は現品に入つて居ります

【容器】百瓦入 金壹圓武拾錢 二百瓦入 金武圓武拾錢 四百五拾瓦入 金四圓五拾錢

大阪市東區道修町 一手販賣元 武田長兵衛

醤油値上廣告

◎一割値上 十月十五日より實行

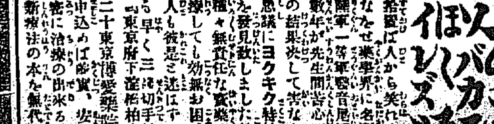
原料益々昇騰仕り昨今容器及び釀造費等一層高價に相成候に付不得止十月十五日より右の通り値上實行致し候間此段謹告仕候

大正六年十月十五日

(いろは順)
裡里醤油釀造組合
太田醤油釀造組合
江景醤油釀造組合
群山醤油釀造組合
金堤醤油釀造組合
全州醤油釀造組合

▲山縣五十雄 村上唯吉共著 富の道しるべ 價十五錢 郵税二錢 京城太平通 京城日報社代理部 振替三一〇番

全治して喜び磯狀山の如く著院す



捨置けば人から笑はれる今なをせ薬學界に名聲有る陸軍一等藥剤官尾博士數年が先生間苦心研究の結果決して害なく不思議にヨクキク特効藥を發見致しました是迄種々無責任な賣藥で治療しても効無くお困りの人も彼是迷はず一日も早く三錢切手封入る東京府下淀橋柏木百二十東京博愛藥院へ申込めば郵資、並全治密に治療の出來る自宅新療法の本を無代進呈

二女喜代子 非遊の路の處態々御會葬被下成辱有奉感謝候 混雜中御尊名伺洩れの有之哉も難計候に付乍略儀紙上を以御厚禮申上候 頓首

大正六年十月十四日

父 小倉柳助
親戚 一同
友人 一同

京城日報

第三版

十五日朝刊 (朝夕刊併せて六頁)

本紙定價 一ヶ月金六十五錢 郵税共 一ヶ年…
廣告料 …
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社
發行兼編輯人 小川三之介 印刷人 奥田直藏

…完成の豫定なる松山製鐵所は先づ第一期計畫として三箇年…四十萬坪、市街敷地及び配水池六十萬…内にありては既に…

支那漫遊

東清鐵道

蘇峯生

予は如何に政治的勢力の、人民生活上に偉大なる影響を與へつゝあるかの、實物教育を、長春と、寛城子との、兩停車場にて得たり。

中間二千町を隔てゝ、互ひに相ひ望む。然も前者は一として日本式ならざるはなく、後者は一として露國式ならざるはなし。寛城子に來れば、急に露國に入りたる心地せり。驛前の飲食店に於ける、黒パンや、肉の大塊を入れたるスープや、販賣店の露國小說や。露人の小供等が素足の儘、泥まみれにて遊戯しつゝあるやら、便所の不潔なるやら、而して革命政府の巡査が、赤布を腕に纒ひつゝ威張り居るやら、獨活の大木然たる軍人の雜沓やら、皆な然らざるはなし。東清鐵道は、露國内の秩序紊亂の割合には、其の秩序を維持し居れりとの評判なれども。從來滿鐵に對して、極めて不服なる者も、東清鐵道に乘り込みて、始めて滿鐵の難有きを覺ゆるなる可し。寛城子の停車時間、約四十分此れは旅客調べの爲めと云ふ。其の仰山にして、物々敷加減、寧ろ支那人をさへも、呆殺せんとするの槪あり。今や中華民國の相庭は、銀價程に貴せざるは勿論なれども、露貨の下落は、宛も露國威信の下落を、徵證するに足るが如し。車内の不潔、無秩序なるは勿論、銃劍を著けたる兵士が、車内を警備するが如きは、姑く措き、切符の取調べ抔に、係員の車内往反の頻繁なる、何等事務的統一なきに似たり。而して南滿の停車場の在る所、必ず人家あるに比して、東清の停車場は、時に唯だ荒漠の野に孤立するを見るのみ。其の荒廢の狀、人をしてウイッテ當時の盛華を想望し、其人存すれば、其政擧り、其人亡ぶれば、其政衰ふの異理を、痛切に感ぜしむ。

大正六年九月廿九日朝 哈爾賓にて

世界の實勢と國民の覺醒

(於朝鮮教育研究會主催講演會)

(十)

文學博士 建部遯吾氏講演

此所まで說來りたる以上に於て我邦發展の先驅として新仲士は拓いて努力せられつゝある諸君の前に、私が後ろの内地から、改めて國民の覺醒と云ふ事を申す必要は斷じて無いと信ずる。此の上長く申すは、諸君に對して大に禮を失するのであるから、國民的覺醒は之で澤山である。唯實行の如何に在ると思ふのである。以上一時間四十五分の時を費して申述べた事柄は、要するに諸君が今日實現されつゝある國運の發展に對して、一種理論的說明を加へたに過ぎぬのである。これに就いても吾々は實理的道德の實行を併せねばならんと思ふのである。西洋に在りては道德はプラトー之を說き、アレストテレス、ソクラテス、カント、ショッペンハウエル等之を唱道したからと云ふて、吾々は之を實行するのでは無い。人間として道德を守るのは天の攝理である。而して勤儉の二つが何よりも先きに行はねば成らぬ事で、戊申詔書にも勤儉産を治めと仰せられてある。勤儉に非ざれば國富を增す事が出來ない。發展的國民は一面積極的に大に勤を行ひ、他面大に儉を行はねばならぬ。之に就いて私は耳に致した事がある。併乍ら之は道路の說では無い。其れは甚多い事であるが、明治天皇に因んだ御逸話である。不肖なる講演の終りを結ぶのに斯の如き事を申述べるのは眞に恐縮に堪へぬのであるが、國民として感激措く能はざる所であり、深き教訓を之より擧ぶ事が出來ると思ふのであるから、茲に申述べるのである。

諸君は御承知であらうと思ふのであるが、京都御所に幸井と申す井戸がある。先帝は御幼名を幸宮と仰せられた。京都御所は舊中山大納言邸の御屋敷であるが、一位局が先帝を御懷胎申したので、大納言家に引下がつて御産の御用意にかゝられた。其の際大納言家は手狹まな所より八疊と六疊との二室より成る御産室を新築する事になつたが大納言家の御勝手元は不如意であつた所から、之に要する建築費二百兩の御下げをお上に願ひ出でた。そこで今日なら内藏頭の地位にあたる廣橋大納言卿よりお上よりして五十兩お下げになつた。五十兩では迚も御産室が出來ない。其の時……中山大納言家にお出入して禁裏のお手許を拜し居つた町人某が、之を聞き、畏多い事であると言つて、手前に五十兩献納さして下さいと申出で、先づ半額の百兩は出來た。所が其の折大納言家と外戚になる松浦肥前守……今の伯爵松浦厚君の家……が江戸表に赴くと云ふ序に、偶此の話を聞き、其れなら拙者が全額を出さう。が、併し町人の忠誠もあるから自分は百兩出さうと云ふ事で、やつと出來上つたのが八疊と六疊との御産室、此所で吾が先帝陛下が御産聲をお擧げになつたと云ふ次第を、今の廣橋子爵の叔父にあたる前主馬頭子爵藤波言忠氏から、松浦伯爵邸に於て最近私が承つたのである。此の事實は歷史上如何なる意義を爲すものであるか、一向判らないが、國運隆々旭日の天に昇るが如き今日の時代に於て、顧みて數十年前吾が皇室にあつた斯の如き畏多い御逸話がある事を追想すれば、吾々は一種止み難き感激の湧くを禁じ能はざると同時に、吾々國民の吾が皇室に對する任務の更に一層重大であると云ふ事を切實に感ずるのである。

以上申述べた事は、一に諸君の御判斷に委すのであるが、忌憚なく且つ往々禮を缺ぐが如き、此の講演の結論として此の御逸話を申上げ實に恐懼の至りに堪へぬのであるが、最近自分の頭に深く染込み、感無量なる一つの事柄として、之れを諸君の前に申述べた譯であるが、之を以て本日の講演は終りと致します(完)

京城を辭するに臨んで(三)

告別の辭に代ふ

中島司

京城を去る勿れと言ふ人あり。今は須らく行く可きの時と言ふ人あり。余の爲めを思ふの情に於ては、之に謝するに餘あり。但し大方の好誼に背いて、強いて辭去せむとするは、情に於て忍びずと雖も、余に於ては當然の理路を辿らむとする也。爲めに咎めを天の一角に受くるとも、進むで身世浮沈の運命を彷徨せむとする。素と是れ熟思の結果の末に出で、自から數奇を好みたる也。我れに於て寸毫悔ゆる所なく、出所進退の毛頭も愧づべきなし。

然るに、卑少余の如き者の進退に關してすら、昨日世上風說の頻りに起り、或は余等の一擧一動に堪へざるものあり。或は余等の事を誤まり忖度し、或は余等の志操を強いて曲解し、御苦勞千萬にも浮言流語の宣布に歩き廻る者もあり。余一人の迷惑は厭ふ所にあらざるも、爲めに累を先輩に及ぼすに至りては「忍ぶ能はざる也」。況んや奸計詭謀を以て、余の前路を妨害し、隱微の間に余が面目を傷けむとするが如き、心事の陋劣なる嗤ふべく、憫れむべし。一寸の虫にも五分の魂あり。余豈に意氣地なく害はれて可ならむや。縱し粟を喰み、水を飲むとも、志を堅持するに何の難き事あらむ。一片耿々の誠心と、乾坤の意氣とだに失はずば、何れの處にか、活躍の舞臺なからむ。若し夫れ鷄鳴狗盜の輩の惡戯の如き、他日を期して粉碎し去らむのみ。然かも余何ぞ求めて敵を作らむや。

登金剛山　水野疎梅

過妙吉祥

川流活々紅葉醲　崗寂洞門雲心[illegible]
溪嵐根佛面寒　木精搗石鼓山鬼
舞天壇對幽深寄　一嘯拄手垂

宿楡岾寺

幾多臺殿碧山頭　木末晩風寒氣流
不斷溪聲長廣舌　無邊月影古中秋
五三佛留金色　萬二千峰翠匹儔
半夜禪房僧語絕　寂然天地一燈幽

又

水月堂前月影[illegible]　龍吟禪畔幾徘徊
山僧不覺千山恐　說時々[illegible]來

下山

昨日金剛々々遠　滿々雲霧[illegible]成[illegible]
爲誰披此幽困膽　寫出龍椎萬傑川

山中口成

捫石披雲山又山　鳥藤七尺入仙[illegible]
懸崖一處何爲用　踏破千峰萬[illegible]間

松山…山田近五郎…局に轉じ日下著手し居れり又製鐵所施設は著々…なるを以て是等將來需給の…決定し遅くも本年十一月末迄には…

▲一般希望者に對する士…氣運に到達すると同時に松山市街…を進し滿洲經濟界に活躍…

誰(たれ)

布施生譯 (95)

『だつて二十年前の預物を今更受取れもしませんでしやう。』『なに受取りにと言ふのは貸は日賃を有つても無くても唯さう言つて會へば可いんだ。』『驚いた、熱心なものですな、一體又其お嬢様は何處に嫁いてゐるんです。』『それはまだ知らんよ。しかしそれは問合先があるから今夜直に手紙を書いてみやう。』利介は兄が決して動かし難いのを見て取つた。けれども今迄二十年の放浪中に隨分危い場合を斬抜けた體驗がある。[illegible]落をして看破された時、追はれて町から町へ逃げのびた時、幾個となしに僞名をして社會の隅に辛うじて生活した時、多くの眼を盜んで恐ろしい[illegible]を仕遂げた時、いつも今度は運の[illegible]かと思ふ事が多かつたがいつもよく斬抜けた。今度はかり運が盡きたのか全く[illegible]い。利介は暫くと若手でそれに引懸つた[illegible]がした。

其夜自分の部屋に退いてからも利介は色々苦心したが結局何の工夫もつきさうになかつた。[illegible]い。先づ何[illegible]仕方がない。苦勞するだけ[illegible]るだけ日を伸ばす事だ。[illegible]にかう法もつくだらう『さう考へて彼はそれから數日間は毎日宅へ來る郵便物に氣をつけた。[illegible]要あつて鍵を[illegible]手紙が一通着いたのを看附けたが、彼はそつとそれを隱した。[illegible]して兄の眼を恐れた[illegible]けてみると、手紙は果して問合先からの返事で[illegible]先は巴里プロバンス街の[illegible]行家に[illegible]て保證[illegible]安人氏と申候小生[illegible]事業に關し氏と面會致す[illegible]に候[illegible]其節大兄の事につき[illegible]氏の耳に入れおき申すべく候云々と書いてある。利介は讀了つてほつと一息ついた。『まあ可かつた。』之が兄の手に這入れば大變だつた。鬼に角之で一時遁れはしたやうなものゝ、早晩兄は巴里へ出懸るに違ない。さうなつてはもう全く哀さうだ、仕方が無い、彼奴はあの儘で置去りにしてやる事だ。そう考へて利介は何とかうまい口實を拵へて兄から旅費を貰ひ米國へ逃げるといふ計畫を立てた。

京日案内
普通 京城南山町三 江川菓子舗 721
安東縣 京城人事急入用 安東物産商會
貿易及米仲買商を望む
大和町三の三 (納涼前) 京城 西島寫眞館 707
鐵砲火藥獵具
本屋光商
鑛物定量分析
銃砲火藥 増戸銃砲店
生花 月桂堂
水車臼賃 萬石寶商
寫眞 京城日報社
自轉車 運轉手
京城自動車學校

日本藥學協會編纂
乳製品製造法講義
醬油製造法講義
酒類釀造法講義
油脂及脂肪類製造法講義
化粧品製造法講義
醫藥品製造法講義
工業藥品製造法講義
疑問あらば照會あれ直に應答すべし
漂白及洗濯法講義
塗料製造法講義
インキ製造法講義
製氷及飲料水製造法講義
硝子琺瑯陶磁器製造法講義
砂糖及飴製造法講義
セルロイド製造法講義
人造絹糸製造法講義
人造肥料製造法講義
人造香料製造法講義
金八十錢
▲小資本を以て一躍成功者たらんとする者は讀め!
▲新時代の機運に乘じ成功せんとする者は讀め!
▲自他を益し進んで國利を計らんとする者は讀め!
藥學 本書は理化工業界の疑問を解決して斯界の大歡迎を受けつゝあり
東京市神田區表神保町二 合名會社 戸取書店 振替東京七九八七三番
圖書目錄御申込次第贈呈す

コスモス萬年筆
萬年筆の選擇を誤り給ふ勿れ!
一號 (インキ止式) 特價 金二圓 ヒュメル萬年筆 特價 金五圓
五號 (インキ止式) 特價 金二圓八十錢 ウイリアムソン萬年筆 特價 金三圓八十錢
六號 (錨出式) 特價 金三圓六十錢 ナイヤガラ萬年筆 (自動吸入裝置) 特價 金二圓六十錢
コスモス萬萬筆インキ 黑 特價金二十錢 赤 特價金四十錢
京城南大門通二丁目 直輸元 膽寫堂京城出張所 電話長四〇二番 振替口座京城一〇五八番

朝鮮彙報 大正六年十月號 (定價貳拾五錢 郵稅貳錢五厘)
口繪 目次
朝鮮彙報の改良
米穀檢查規則の改正及大豆檢查規則の制定に就て …… 小原農商工部長官
朝鮮に於ける基督教 …… 宇佐美内務部長官
最近の法律思潮 …… 牧野法學博士
鐵道水力調查 …… 遞信局
執務能率の增進 ◎笞刑に就て ◎朝鮮農家に適應すべき五、六石脫穀器考案 ◎手紡麻苧絲の漂白試驗成績 ◎大阪對朝鮮貿易 ◎京城並光陵林業試驗地の要害と麻疹の減退 ◎濟生院事業概況(完) ◎朝鮮の佛診に就て(山本團) ◎江西郡の造林事業 ◎畜産同業組合經理狀況 ◎家蠶繭の輸出 ◎秋蠶豫想 ◎朝鮮鐵道穀類特定運賃の改正 ◎地方勞働者の概況 ◎第七回記念植樹狀況 ◎鮮人道管區在法令及通牒 ◎判決例 大正五年十二月末耕地面積

朝鮮彙報地方號 毎月一回十五日發行 定價十二錢
口繪 ◎面制の特徴 ◎面制解說 ◎面制に就て
販賣店 京城本町 大阪屋號書店 振替京城二五七三番

最新刊
自覺に於ける直觀と反省
日本年鑑
南洋前編
日本國民性の研究
理想の珠算
野球の見方
通俗寫眞術
少年少女教育新話

大阪屋號 臨時大廉賣品

漆器 靜岡 丸五漆器店 京城出張所 京城本町二丁目 ○本年は在品殊に豊富精良品は特販賣可仕候間多少共御用命願上候
指物

◆入京せる大隈信常氏一行（十四日夜南大門驛にて）（向つて右より）大隈前代議士、横山代議士、關前代議士

◎南北兩軍再戰鬪

南北兩軍の前衛戰は北軍必ずしも利あらず南軍は衡州方面より全軍を擧げて來援し其數二十五營（兵員七千人）に達し北軍も亦湘潭南方に北洋軍の主力を集中し第八、第二十旅を加へ二旅半（兵員六千）に上り九日朝より衡州の南方に於て再び戰鬪を開始したり北軍公報は午後三時に至り石橋を占領し俘虜百名小銃二十挺を鹵獲せりと報せり南軍が全兵力を傾倒して第一線に出でたるは兩廣方面の援軍の來著しつゝあるを語るものにして廣西の五十營は既に到著し廣東の瑪濟、林虎の兵廿營も亦湖南境界を踰ゆたるものと推斷せらる（北京特電）

湖南に於ける本月六七兩日

◎獨海軍暴動原因

艦隊の謀叛につき報道せるが謀叛は長き無聊と粗惡にして不充分なる營養と盛爵の苛酷と陸上勤務の或る文官の擅横に基因するものにして謀叛は最初一戰鬪巡洋艦内に起り水兵は士官を脅迫し命令の遵奉を拒みたるを以て軍法會議は是等水兵に死刑の宣告を爲せるに其結果軍艦内に叛亂起り艦長は海中に投ぜられたり他の一戰鬪艦にては水兵の一團其食料の分量の不足に不平を起し士官室に行き食品を奪ひ次ぎに許可なくして軍艦を去りしが非常なる破壞運動を行へりと（倫敦電報）

巴里來電＝當地新聞は獨逸

◎潛航艇乘組を嫌ふ

獨逸水兵間に潛航艇乘組を嫌忌するの傾向蔓延し最近數名の水兵潛航艇乘組を拒絶せる爲め銃殺せられたり右銃殺は獨の軍艦水兵の謀叛と別事件なるは注目に値す（倫敦電報）

◎獨軍盛んに掠奪

巴里來電＝英軍正面のリールに於ける食糧狀態危險となり獨軍は市民用の貯藏物品中五分の一だけを殘し其他は萬有物品を掠奪し又有名なるラファエルの油繪を首め美術品を持去り始めたり今日迄眞鍮、銅、青銅等の小家具什器を徵發せざりしが昨今に於ては是を徵發するに至れるのみならず政府の爲めに押收さるゝ物品は頗る多種類に上りピアノ、鈴、燭臺、漏斗、留針等をも含むに至れり（倫敦電報）

◎兩軍有利の前進

英軍は佛軍と協力してブールの東北方及び東方の麗き前線を攻擊したるがヘーグ元帥に依れば到る處有利なる前進を爲せりと（倫敦電報）

◎仁川金融狀況

九月中に於ける仁川の金融は概況……價も初旬以來内地暴騰……參ると共に相場下落……入氣更に……

……に在りし……め綿糸布……方荷動も相當あり……多く加はる……

……甚だしく小額支拂手形は依然不足……の爲め月末數日間に僅かに二百四……十圓を算へ……布したるに止まり……

……和申分なきと共に依り依然下値不拘更に買進手合なく相場十一圓……行はれ神力上玄十八圓四五十……五十錢所に著しく下落を示せり……

◆日本任軍艦……十三日午前九時四十分釜山入港新羅丸……

……一名……

……十三日午後十時五分釜山入港……

◎伊軍敵塹壕破壞

コルブリコン地方にて我軍は巧みに逆行し地雷を以て敵塹壕を破壞したり我砲兵はトルミノ北方に活躍し敵の自動車運輸隊を擾亂解散せしめたり（羅馬電報）

◎都督獻上品

中村關東都督より兩陛下に獻上の朝鮮梨、柴、煙草（キャラーヂ）は都督秘書官白須直氏之れを捧持し十四日午前十時大連解纜の靈中丸にて東上せり（大連特電）

□晉州神社 鎭座式執行

晉州神社に於て十四日擧行されたる明治神宮御神靈の鎭座式は正午滯りなく終了せり市中は催物等あり盛況を極む（晉州特電）

◎綿糸暴落影響

綿糸暴落の爲め痛手を負ひし者多く山口嘉藏氏の如き大商店は損失一千萬圓に上れりと云ふ其如何に整理せらるべきやを知らざるも當地財界に影響する處尠からざるべし（大阪特電）

◎速な朝鮮開拓の進步（上）

山本政友會總務の車中談

入京中なりし政友會總務山本達雄氏一行は十四日午前九時十分南大門驛發列車にて西下せり、山本氏の車中談に曰く

釜山に上陸して各方面を視て京城に入り地方を兩三日間忙しく觀察した結果予の頭に浮べる

▲第一の感想は朝鮮開拓の進步が各方面共頗る速やかに行はれてゐると云ふ事である、多年の惡政に苦しんだため姑息となり懶惰となり殆んど救ふ可からずと思はれてゐた朝鮮人も日韓併合の結果吾が版圖に入つてから著しい程度で復活し目が覺めてゐる、其の狀態を言葉はそこにも此處にも發見して甚だ愉快に堪へなかつた恐らく朝鮮の開拓は今後此の勢ひで進んだならば十年若くば十五年にして驚ろくべき進步を見るであらうと思ふ、十三日は京城から自動車で仁川に往復したが其の高低殆んどなく坦々として砥の如き京仁國道の整備は予等を少からず驚ろかした、殆んど路盤の如き塵も上がらぬ固まり方である、東京の近郊にだけ

▲道路　はないと思ふ

朝鮮の治道行政は頗る民度以上だとの話しだ恐らく事實は然りしたがし道路を先に造つて然し道路を先に造つて内陸產業の發達を盛んならしは開進式の植民政策で……

◎山本氏一行著壤

政友會總務山本達雄氏並に前代議士長島鷲太郎小阪順造氏等の一行は十四日午後三時二十分北行列車にて平壤驛に著來壤したるが一行は篠田道第一部長本田府尹等の案内にて自動車を驅りて牡丹臺附近一帶の風景を賞し浮碧樓に於て少憩の後旅館柳屋に投宿同日午後七時より大同館に於て開催せる平壤官民合同の歡迎會に臨席したり尚ほ一行は十五日午前四時平壤驛發列車にて北行す（平壤電話）

◎總督群山著

長谷川總督は十四日午後八時四十分大邱より群山著重なる官民在鄕軍人等多數の出迎へを受け谷口旅館に入れり十五日は滯在諸官廳其他を巡視し十六日午前七時四十分忠淸南道公州に向ふ豫定なりと（群山特電）

◎獸醫講習會

警務總監部衞生課にては來る十一月五日頃より八日間各道警務部憲兵隊所屬獸醫の講習會を總監部に於て開會の筈にて其の科目は屠獸肉の檢查法細菌檢查方法、牛乳檢查方法の三項にして每日午前九時半より午後四時迄とし講習會員は十三名なるも開會の日時には多少變更あるやも計り難しと

◎大隈氏一行入京

前代議士大隈信常、横山章代議士、關和知、櫻井兵五郎、賴母木桂吉、稻田文次郎の六氏は十四日午後九時南大門驛著急行列車にて入京し早稻田校友會員の出迎へを受け直ちに自動車を驅つて朝鮮ホテルに投宿したるが一行は十五日早稻田校友會及び石川佐賀兩縣人會合同の歡迎會に臨み同日午後九時四十分發列車にて北行途中平壤驛に下車し牡丹台の勝を探りたる上朝日奉天に向け出發の豫定なり

◎久保理事出迎

滿鐵理事久保要藏氏は十六日入京すべき村關東都督一行出迎のため十五日午前九時十分南大門驛發列車にて安東に向ふ由

◎小川代議士出發

十三日夜入京せし政友會代議士小川平吉氏は十四日午後九時四十分南大門驛發列車にて支那方面の旅に上れり

◎京郵親交會

京城郵便局郵便係員九十餘名より成る親交會秋季大會は十三、十四の兩日に分ち甘泉亭に於て兩日共午後一時より開催されたるが餘興として源氏輪琶、琵琶、有志の仁輪加等の催しあり次いで夕方より黃金館活動寫眞の總見あり頗る盛會なりき

◆安藤課長歸任

鐵道運輸事務打合せの爲め神戶東京等に出張中の滿鐵京管安藤營業課長は十三日東京出發途中所要を辨じ來る十七日夜歸任の豫定なりと

◆隈部少將へ記念品發送

京畿道警務部長より關東都督府警務總長に榮轉せる隈部少將に對し京城官民有志にて記念品贈呈の計畫ありしが愈々道警務部内よりは金時計一個部外よりは銀瓶一對道食堂俱樂部よりは象櫻桃一脚十二日同少將へ向け發送せり

◎仁川短信

▲商議評議員會　仁川商業會議所は十四日午後七時より同所樓上に評議員會を開き經費賦課徵收規程改正の件報告及び物價騰貴に由る臨時手當給與の件等を附議す▲取引所總會　仁川米豆取引所は十五日同所樓上に於て定時株主總會を開き上半期收支決算報告及び利益金分配案等を附議すべし▲長岡中將講演　長岡中將は十五日午後六時より仁川商業會議所樓上にて一場の講話を爲すべく一般官民多數の來聽者あるべし▲東山農場祝賀會　飛龍里なる東山農場にては十四日午前十一時より開場十周年祝賀會を催ほし京仁知名の士數百名を招待したり

（人事消息）

▲滿鐵理事國澤新兵衞氏（朝鮮鐵道局長）十四日夜入京朝鮮ホテル投宿

▲山口太兵衞氏（京城商業會議所會頭）同上

▲稲垣陸三郎氏（京城商業會議所副會頭）同上

▲吉田茂氏（朝鮮總督府技師）同上

▲荒井眞次郎氏（明治製菓專務）同上

▲秋葉初太郎氏（小野田セメント技師長）同上

▲富岡大郎氏（新築工事局長）十四日……

◎鮮銀本店貸出

鮮銀本店の最近貸出現計を聞くに日數四百十八名額一千百六十二萬三千圓にして内同業者に對する融通四十八口二百九十六萬七千圓を示したり尚之れを前月に比すれば九十二萬四千圓の增加となり居り

◎聯合軍敵襲擊退

十日地形の不利と天雨とありしに拘らず聯合軍は彼我猛烈なる砲火の中に陣形を整理し敵の逆襲を擊退したり軍事批評家は其日の大勝利の効果を喋々し白耳義海岸の獨逸占領地に對する脅威を加ふるに重大の價値あるものと論せり（巴里電報）

◎ゴンダッチ氏赦免

前黑龍江沿海州總督ゴンダッチ氏はイルクーツクに流謫され居たるが今回假政府より赦免されると同時に極東亞米利加汽船會社支配人に就任の上近く浦鹽斯德に來るべしと（浦鹽斯德電報）

◎伊軍飛行隊活躍

伊太利飛行隊はカツタラオ港を襲擊し同港内碇泊中の墺國驅逐艇數隻及び潛航艇に多大の損害を與へたりと（羅馬電報）

◎獨副宰相不信任

去る土曜日獨逸議會にて副宰相フエルフリツヒが陸軍の汎獨逸主義宣傳運動の質問に對し答辯を拒絶せるを不都合なりとして社會黨は副宰相不信任の動議を提出したるが議會に於ける主なる委員は是を否決せり（倫敦電報）

百聞百種

米國は上下を擧げて……すつかり戰爭氣分になつて大分力瘤を入れて居る▲何しろ黃金の威か四方から打ち込む米國である大概の事もやる米國であるが拵て其の仕掛の事もやる▲兵器と軍資に於ては申分ない米國であるが其の軍人にも亦一種の米國流氣風がある▲一例を擧げて見ると或る時ルーズヴエルト君が▲今度組織された國民軍の一師團長になつたベル將軍に對する評言が能く其の米國軍人氣風を表證して居る▲將軍は非律賓に居た頃三度武裝せる土人の襲擊を受け危ふく命を取られやうとした▲其時將軍も亦武裝して居たが敵を殺す事はせず自分の生命を賭して彼等を生捕つたのである▲三度共さうであつた是れが卽ち米國軍人の精神である▲危險を冒して仁慈と仁義は敵にも及ぼす事を躊躇せざるが我軍人の精神である▲米國軍人は將校にして紳士であらねばならぬと云つて居る▲之れが乃ち米國軍人氣風である▲米國の軍人は此の氣風で以て歐洲戰場で大に獨軍と雌雄を決しやうとして居る

桃谷研究試驗所製

學理の精粹を發揮したる

美しくなる液

「美顏ユーマーの作用こそは近頃珍しい現象として世の婦人男子方の間に噂の種となつて居ります。

唯二回の使用

その時だけでも、顏色の美と皮膚の感じに於て、既にこの新しい「美しくなる液」の作用の程が明かに窺はれます。

二回三回四回

使用者は最早鏡の内に、新しき美しさに向ひつゝある自分の容貌を見出さずには居られません。

これなら萬人が求めて止まぬ眞の美容の目的が充分に達し得られる……

桃谷研究試驗所技師たる諸學者が認め、確固たる自信を以て、其研究を發表したる御製品「美しくなる液」それが此美顏ユーマーであります。

美顏ユーマーの成分と作用

◆新しき粘液美容素

これは桃谷研究試驗所に於て、美しくなる液の創製を目論んだ當時、先づ研究して新しく發見したものであります。此粘液素は、顏色を艶麗ならしむるは勿論、特に皮膚を柔かに滑かにして毛孔を開き作用を致します

◆新しい白色美容素

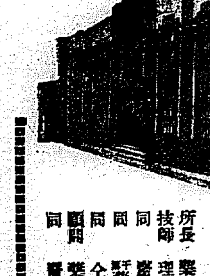
斯うして毛孔の開いた所へ、これも桃谷研究試驗所の發見に成る新しい白色美容素が其開いた毛孔から浸込んで行きますから液は一滴もムダにならず、其强い白色美容の作用を遂げる事が出來るのです。

◆日燒を防ぐ成分

その開いた毛孔から浸込んで働く成分の中には、白色美容素の外にも種々の成分（例へば皮膚の新陳代謝を活潑にして美容を促す成分の如き）が在りますが際に御注意を乞ひ度きは、日燒を防ぐ成分であります。此美容素の作用があるので、美顏ユーマーを常用すると日に燒けないといふ事が一般に言はれてゐるのです。

◆皺と荒と顏色

前に述べた粘液美容素には尙た皺を防ぎ、荒れを留める作用が備はつてゐます。其譯は此美容素は皮膚を粘滑ならしめる作用が優れてゐるからです。それから外出前などに一寸附けた丈けで顏色を晴やかに活々させる事顏剃の後に用ひて剃刀ブレを防ぐ等も特質の一つであります斯ういふ學理上、實際上完全な美容液ですから、美顏ユーマーは若き婦人方ばかりで無く、男子、及び年のいつた婦人方の間にも非常に賞用されてゐます。



名譽ある美顏ユーマーを創製したる

桃谷研究試驗所

所長 藥學士 桃谷幹次郎

技師 理學士 西澤勇志智

同 醫學士 米倉昌達

同 藥學士 小磯勝次郎

同 全藥學士 齋藤毅助

顧問 藥學博士 丹波敬三氏

同 醫學博士 山本淳一氏

使がつた内で ヒーロー印防水靴クリームが 靴の爲めには一番だね

本品は到る處の靴雜貨文具店にあり

ハンマーネクタイピン 色々出來ました 一個金參圓也

遠方御注文は代金引換小包便にて御送り致します

京城本町二 村木時計舖金工部 電話四七一番 振替三一九〇番

□御手輕料理開店御披露

謹啓 秋冷の候各位樣益々御多祥の段奉賀候 私儀 東京日本橋魚がし料理部に從事罷在候處今般左記の場所にて開業仕候未だ腕も未熟なれ共魚の新鮮を撰び時化廻りにて材料不足の時は内地取引先より直輸入致し東京流の美味なる品々調進仕り御注文の品は迅速御配達可致候間御試驗の上御愛顧御引立の程 伏て奉願上候 敬白

京城本町一丁目府廳横町 魚がし料理支店舊天金跡 春の家主人 電話二千七十七番

御料理三品御飯付 金四拾錢

中御天丼 金廿錢

上御天丼 金卅錢

天丼 金廿五錢

魚鳥鍋類 金廿五錢

上等すし 金廿五錢

ちらし 金廿錢

外御好み次第調進可仕候

各位樣

玩具卸商 京城本町一丁目 織田東洋館 電話二六九八番 振替京城二五六七番

薄利多賣出荷迅速は弊店の特色

眼科專門 入院隨意

京城明治町東拓横（電話二〇四四番）

江頭眼科醫院

日曜祭日午後二時迄 江頭富雄

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行

電話 {總裁室 營業部金口座 三一三、三一二番 一二〇六、一三一四、一三一一、一三二〇、一三六一、一六一三}

支店 東京、大阪、神戶、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春、開原、四平街、吉林、哈爾濱、營口、傅家甸、龍井村

出張所

右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

[illegible]の撤布に依り主として[illegible]
畏懼せらるゝ米穀及び絹絲布の甚だしき痛棒を受けたるとに依り米[illegible]定期受渡資金と共に兎々荷に[illegible]

▲資金の需用 あり且又前[illegible]金融界の大勢は夏枯季を承けたると新穀出廻りには尚早なる爲め格[illegible]の謹に越月せるも尚[illegible]て今後[illegible]少迄り、

▲十八萬五千 圓貸出[illegible]四十四萬四千圓を挽[illegible] 又市場には補助貨の払底[illegible]要亦益々[illegible]すべし 共に小額補助貨の需[illegible]

▲米は八月末 の内地安と大連相場の落付とに依り[illegible]初め龍山大豆十二圓五六十錢より十三圓を唱へたるが内地の安値と[illegible]狀を呈せり大豆は之れに反して目先[illegible]の高値に雖めて[illegible]

●聯絡船上陸客 十三日午[illegible]四萬六千餘[illegible]月末の在庫に比すれば[illegible]叺を減ぜり(仁川)

[illegible]二等(八十一名)[illegible]

◆京城神社の鳳輦 高さ一丈五寸、長さ柄まで二丈、宮内省御用達東京師京都三上源治氏謹製、用水土り迄中約五千圓を要せしもの

●西二臺子の遭遇戰

兩軍の主力=渾河を挾みて=宿營地出發=南軍の退却=北軍の追擊

第七師團機動演習從軍記 於奉天 金谷生

嘗てクロパトキン將軍が『余は包圍されたり、靴下の袋の底に包圍されたり。』と嘆息したあたりで道回の機動演習は催ほされた、滿洲駐箚第七師團の鐵嶺步兵第十三旅團の聯隊對抗演習第一日は十二日朝から開始された、此の日

◆南北兩軍の想定 によれば北の鐵嶺吉田聯隊と南の遼陽鐵林聯隊とはどうしても奉天の北方鐵道線路に沿うた奉天、鐵嶺街道で衝突することとならねばならぬ衝突する兩軍は共に假想南北兩軍の一支隊であつて主力は奉天の東方福陵以東に於て渾河を挾みつゝ相對峙し決戰の期方に切迫しつゝある時である、依つて南軍鐵林支隊は

◆敵の側背を脅威 し軍の作戰を容易ならしむる任務を帶びつゝ奉天の西南方數里の渾河下流倭金堡の橋梁を渡り十一日夜既に奉天停車場附近に停止して居るのである、而して支隊の編成は步兵第廿六聯隊に鐵道守備の獨立步兵第二大隊(機關銃一隊、通信班一個)と騎兵第七聯隊の第一、第三中隊及び野砲兵第七聯隊の第一大隊並びに工兵一小隊を有してゐる、更らに北軍の吉田支隊は本隊增援の爲め前進中敵の一支隊が

◆渾河右岸に進出 せるの報に接し遠くこれを奉天以西に聚擦するの目的を以て鐵嶺奉天街道を下り十一日の夜は奉天の北方五里ばかりなる柳崗屯、二臺子の線(鐵道線虎石臺驛の東方約一里)に宿營した、而して支隊の編成は步兵第廿五聯隊と獨立步兵第一大隊(機關銃一隊及び通信班一個)と騎兵第七聯隊の第二中隊と野砲兵第七聯隊の第二大隊とこれに工兵一個小隊を有して居る、斯くて兩軍の精銳は十二日早朝步武堂々と宿營地を發し

◆遂に奉天の北方 二里餘の西二臺子北方高地に於て衝突した、時に朝暾燦々たる午前九時、南軍採みに採むで戰ひたれども時に南軍に利あらずして北軍の勢ひいと〳〵猛く鐵林大佐は遂に恨を吞むで退却するの止むなきに至つた、午前十一時十分勝ち誇りたる北軍の追擊は愈よ益々急なり南軍は鐵道線路に沿ひたる奉天城の北西を經て逐次渾河方面に移動しつゝあり今夜は多分奉天西南方數里の德勝營子北方高地に攻擊防禦を試むるであらう(十三日午後一時)

●支那見物の六政客

政治的意味はない=日本の政治家は支那を理解して居らぬ=南北の名士と意見の交換がし度い丼と

•入京した大隈信常氏一行語る•

大隈信常氏一行は十四日午後九時南大門驛著の列車にて入京したるが車中、肥滿童顔の大隈氏は重相に身體を向けて『態度は政治的意味を帶びて支那視察をするんぢやない只南北

■支那を一瞥 して廻るに過ぎない』と伏線を張る、と横山章氏が横合から『僕が朝鮮支那に於て二三の事業に關係して居るから利權取りにでも出掛けて行く樣に思つて居る者もあるだらうがそんな心意は毛頭ない僕は日露戰後一度南北支那を旅行したのみで其後絕えて久しく支那の地を踏まないから寸暇を偸んで

■曾遊の地を 遍歷して見るに過ぎない』と念を押す今度は事は遺憾とすべき事であるから此の機會を利用して出來る丈け

■研究して來る」とそろ〳〵本音が出て來相になつた處へボーイが下車の用意を促しに來た

●鳳輦發幸

京城神社大祭前夜祭と道筋

京城神社大祭は十六日夜前夜祭を行ひ十七日午前八時鳳輦發幸祭を執行し同十時發幸、總督府官邸前より日の出町、大和町、新町、本町通り、京城府廳前、南大門通り、御成町、南大門停車場前(正午)古市町、青葉町、元町、旭橋通り、榮町龍山橋通り四ツ角を經て午後四時三十分御旅所著、十八日は午前八時祭典執行、九前發幸、龍山停車場前、漢江通り、岡崎町、南大門、太平通り、京城日報社前(正午)武橋町、鍾路、黃金町、南大門通り、明治町、佛國教會堂前、永樂町、黃金町、若草町、日出小學校横より南山を上りて午後四時三十分京城神社に還御の豫定なり

●軍機漏洩事件 首魁捕縛

曩に神戶に於て捕はれたる元舞鶴海兵團水兵落茂考五郎は水雷艇の秘密機械並に之が解說圖面なりと稱し神戶在留の獨逸人に賣渡さんとして發覺し捕縛されたる者なるが舞鶴軍港所屬某水雷艇乘組海軍一等兵曹山形縣人猪飼石次郎は同事件の首魁者として舞鶴にて拘引されたり(大阪特電)

●東海道線開通

同時に阪神電車も

再度の暴風雨にて不通となりたる東海道線は十四日朝より開通し阪神電車線も亦同日より開通したるが箕面電車は一兩日中又京阪電車は十八日より開通の見込みなり(大阪特電)

□戶叶氏追悼會 全鮮記者團主催前代議士戶叶薫雄氏追悼會は十四日午後三時半より南山本願寺別院にて營まれ記者團全部の外生前の知人等も參會僧侶の讀經に次いで荻谷朝鮮新聞社長の追悼辭朗讀あり大垣京通社長、高洲群山日報社長、此外日本通信特派員の追悼詩の吟詠あり頗る盛儀なりき

●徒戲から殺人

黃海道鳳山郡岐川面墨川里農李寬業(四五)は同里崔聖九(四五)と共に九月二十八日銀波市場にて飮酒し其の歸途寬業は聖九に對し汝の妻を俺に呉れといふたるより口論を初め聖九を踏んだり蹴たりしたる爲め同人は十月二日死亡するに至り寬業は沙里院警察署に逮捕さる

●李王職運動會

李王職の運動會は十四日午前九時より秋色深き淸涼里洪陵に於いて開かれたりスプーンレース、高等官レース等があり、中には運命競爭といふ奇拔なレース等あり、運動は午前中にて了り午後は模擬店の立食あり頗る盛會なりき

●捥ぎたての果實賞でつ、

▽秋の日浴びて果樹園内の盛宴

◆◆◆山縣政務總監等を招待した東山農場

岩崎男爵家の經營にかゝる仁川市外の東山農場では十四日の日曜を卜し山縣政務總監をはじめ宇佐美、小原、松永、持地の各局長官、關屋學務、荻田總務局長、久水外事課長、本田、森安、豐永の三博士並びに内務部農商工部の各課長、京畿道、水原模範場、纛島模範場支場の主なる人々及び京仁の民間有力者を農場内の

■◆果樹園に招待 した、政務總監の一行が南大門驛を發したのは午前八時五十分車中歡談に時を過す内に十時列車が杻峴に著くと平素步き馴れた素空總監は徒步の方がいゝとあつて驛前に迎へに出てゐた車には乘らず小一里もあらうと思はれる道を先きに立つて膝栗毛に驅たれる、これに續いて一同は近道だといふ狹い鮮人部落を農場員の案内で幾つも拔けて十時半過ぎ農場に著く

■◆農場は十年前 に創設されたもので東山とは故彌太郎男の字號をそのまゝ取つて命名したものだといふ、場所は杻峴驛から約三十丁、港内深く灣入した干潟に面してる半島のやうな岡の上にある、農場主任の山屋堯俊氏は一行を迎へて

■◆港内の眺望を 一眸に收むるところに設けられた休憩所に案内、小憩ののち政務總監は一同と共に山屋氏の案内で總面積三十三町步といふ廣い農場の一部を巡られる、その途中にある穴倉のやうな果實貯藏庫を見て果樹畑に出ると植ゑつけてから七年前後になるといふ樹上には苹果、梨の美果が淡黃、濃紅、橙黃の色とりどりに枝も撓はに累々と實つてゐる

■◆今年の寒氣と 旱魃のために大部分枯損の厄に遭ふたといふ葡萄畑は見るも慘めであつたがしかも赤畑の中の柔土に接吻せんばかりに下垂れてゐる熟れきつた苹果の樹の近くに額を寄せると、或る快よい甘い匂ひがプンと鼻を衝いて愉快であつた、政務總監は山屋氏から

■◆詳細の說明を 聽き〳〵大滿足で園内を一通り觀て更に以前の山上に戻られ更に此處に休息される内に午砲が海面を渡つて響いて來ると水天髣髴の海に臨み綠波を罩むる彩霞のやうな苹果畑を眼下に見る小松林の中の廣場に設らはれた天幕張りの食堂に開宴、主客の間には別に改まつた挨拶も無く午餐を喫め

■◆捥ぎたての梨 苹果、葡萄、西洋梨等に舌皷打つて談笑頻りに湧く二時ともなれば政務總監は山屋氏等以下農場員多數に送られて同所を辭し、更らに東山農場の向ひ側にある平山農場に立寄り同氏の果樹園を一覽の上仁川發五時三十分の列車で薄暮歸京された

うわさのうわさ

朝鮮の佛教は禪教兩宗となつて居るが宗脈はすべて臨濟宗であつて、大慧書狀や高峰の禪要等が大分廣く讀まれて居る▲しかるに怪むべきは大慧書狀や高峰の禪要はそれ程廣く讀まれてゐるにも拘らず臨濟宗で宗門第一の書とせらるゝ碧巖集は一向に讀まれないのみならず皆讀さへない▲ところが近頃測らずも崔南善といふ朝鮮青年讀書家に依つて朝鮮版の碧巖集が發見されてしかもそれが立派な朝鮮版の活字であつて李朝の初期を去る事あまり遠くない時代のものと思はれる▲たとこれが缺本で第六卷以上の卷のないのを惜んでゐたが今度はまた朴漢英といふ佛教中央學林の教師が全部揃つた朝鮮版の碧巖集を持つて現に生徒に講義して居る事が分つたこれで朝鮮版の碧巖集は二部發見された譯である▲これに依つて見れば昔は朝鮮にも碧巖集があつたが朝鮮の禪林では重に拈頌ばかり用ひ來つたので碧巖集は何時の間にか叢林より逸出したものと思はれる併し斯く二部までも朝鮮版の碧巖集が見出されたからには寺院、藏書家等の庫底を穿索したら此の如き珍本もポツ〳〵人間に出で來るだらう。

◎鑛山技師入用

高等工業冶金科出身在鮮金屬鑛山に數年實地經驗ある志操堅實にして四十歲迄の强健者を要す委細面談保證人又は紹介者履歷書送られたし

京城大和町一丁目 北鮮鑛業所出張店

ソレコノ通リ

目ニ見ヘテ ズン〳〵トキク シュマズ イタマヌ 井上博士ノ ロート目藥

登錄商標

◎買方注意
(一)藥は必ず思ひ立たる時買ひ玉へ
(二)藥は成べく高きものを買ひ玉へ
(三)藥は病の經き内に買ひ玉へ

ロート目藥 本舖 東京市日本橋區本銀町三丁目 山田安民藥房 電話本局一〇九七番

ロート目藥 發賣元 大阪市東區南久寶寺町二丁目 山田安民藥房 電話南二〇八番

ロートの特色
(一)眼科を以て有名なる東京眼科院長獨國醫學博士井上豐太郎先生處方に係り大前藥學士の鑑査を經たる故患者は安心して用ふることを得
(二)病眼を不潔の手布等にて拭ふは目の爲めに惡し故にロート目藥には下圖の如き消毒したる布を添ふ

布 點眼器

(三)點眼器の鋒の尖りたるは眼に危險也ロートの點眼器は鋒を丸くしたる故危險の恐なし
(四)シュマズ痛まず故に小兒に用ふるに便利也

◎善は急げ直ぐ試み玉へ
「比較べる」は品質の優劣良否を判斷する一番の早道であります、故にロート目藥と他の目藥とを比べ玉へ、善は急げ直ぐ試み玉へ

定價 徳用大瓶 五十錢 中瓶 二十錢 小瓶 十錢
全國各藥店にて請賣す

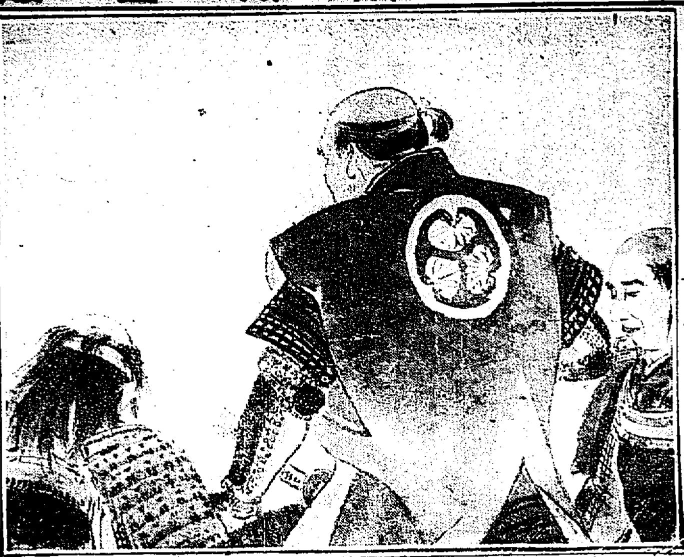
櫻御殿

第四十二回 大阪 霞の家主人

關ケ原合戰（十三）

『近う〳〵』と家康は肱を張るやうに云つた、長政は進み出る、その手を執つて

『御苦勞であつたのう、貴樣等の忠義に由つて、まづ大敵に打ち勝つた、過分に存ずる』といふ下から、佩して居た黃金作りの太刀を取つて與へる



家康が第一に長政を賞與した異意も正則には知れて居る、野州小山の陣中で、石田治部少輔旗上げの知らせを聞いたとき、眞先に家康の懷へ入つて、相談相手となつたは彼である、正則を巧に說いて有力な味方にしたのも彼である、家康がそれでもまだ疑つて居る事に力づけて、まさかの時には正則を刺し違へ死ぬとまで覺悟の色を示したのも彼である、すると正則を賞する詞に、とよ

長政を賞するのは當然である

正則は兎も角も滿足した、そして心に『甲斐守が江戶內府公にお覺ひ芽出度いのも、乃公を親友に持つた爲めである』との誇りが見ゆる

次には誰にお言葉が掛るであらう、輝政と正則とは、そも渦潮を出發する時から、先陣を爭つて居る、何方を前にしても苦情を免る事は爲きまい、正則輝政を外にして、誰か長政につぐであらうと諸將は興味をもつて見る、すると家康の側に居た本多忠勝が口を出して

『いや、今に始めぬ〳〵の御勇氣、且は一寸の隙も無い御手配、只々舌を卷いて驚く外ござり申さぬ』と云つた

本町一丁目三越向 電話一四七番
齒科診療 野田齒科醫院
齒科醫士 野田應治

『家康の周圍には、斯うした名臣がいくらも居た、家康の胸の中を見て取つて、すぐ始終を合せて了ふ』

『いや〳〵中務こそ優れて居た、とても及ばぬ、とても我等の及ぶ所でない』

正則は吊り込まれて斯う答へた

その時忠勝は中務大輔であつた

『はゝ〳〵』と忠勝は大笑ひして、『拙者が強いのでは無い、敵が弱いのでござつた』

毛皮なめし並に仕立
獸皮製調進 羽根布團製造修理 鳥獸毛皮類高價買入 剝製標本
京城本町二丁目 電話二〇六九番 振替京城三四九番
貿易商 樽元商行

『いや何うして、貴樣の軍上手は豫てから聞いて居たが、今日といふ今日、我を折つた』と正則は再び云つた

後でまた軍語がかず〳〵初まる、少くも五日や七日は要るであらうと思はれた戰鬪が、僅か半日で味方の大勝利になつたのであるから、全軍の士氣はいよ〳〵振ふ、この勢で押して行つたら、さしもの大阪も一擧でに爲るであらう、と皆が勇む

『まるで天が明けたようぢや、凱歌をお擧げなされては何うでござ』

質 本多質店
京城太平通二丁目
嚴密精々高價御預

斯う云た者がある、家康は見て

『なにさ野郎の軍には聊か覺ねた點があるで、今日の勝利、初めから此の胸に收めてあつた、然し一たんの勝利は最後の勝利でない、貴樣達の妻子眷屬は大阪へ質に取られて居るでないか、その家族を取り戾して、それ〳〵へ返すまでは、眞正の勝利でない、凱歌を擧げるのは其の上ぢや』と人の歎ふことを云つた

それを聞いた人々は、今に始めぬ家康の慈悲に感じる

『次は佐和山ぢや、この先登—』と正則が云ひかけるとき

『金吾中納言殿お姿が見ゑぬ、今日の軍に勝利を得たも、ひとへに彼の殿の變心からぢや、何と召された』

『金吾殿の御旗じるしは』と心利いた初鹿野傳右衛門が一方を遠く見遣つて『あれ〳〵、彼に見ゆる』

『お迎へ申せ〳〵』

家康は急いで云ふ、村越直吉承はつて陣幕を出るとすぐ汗馬に鞭うつ

金吾秀秋を味方につけて、西軍の計畫を根本から碎いたも、その功の大部分は、正則に歸せねばならぬ

正則の得意はいよ〳〵加はる

半ゑり 帶あげ しめ 片側 京城旭町一丁目 ゑり治商店 電話二五六二番

年期刺繡弟子十五歲位の者募集

日報俳壇

立秋

秋立ちて庭草は穗を孕みたり　森□
立秋の日輕く過ぎし庇かな　同
藥研洗ふ乾村局や今朝の秋　齊藤□郎
水桶の箍彈けし今朝秋の音　未刀
壁風き乾きし家や今朝の秋　月小夜

初秋（上）

初秋の盈れ陽光る樹立かな　山紫坊
初秋を瞬く星の光りかな　同
初秋の風に歪める胡瓜かな　井蛙
豫後獨り初秋に入る温泉哉　秋光
初秋の雲仰ぎ見る車上かな　飛泉
初秋の風を淋しむ移民かな　仙子
初秋の體量計る錢湯かな　生風
初秋の陽に垂れたる柑子哉　北豊
初秋や雷公鳴りす日和癖　蘇風
初秋の碁石冷たき指頭かな　忍堂
初秋や鐘撞は動く蜂の雲　不滅

□夕七夜吟（九、二七）

秋の水、新酒

□　浮碧樓
秋の水の野菜船でゝゆき
倉庫のなかが一と目でみゆ秋水ながるゝ
たまに洋服を著て出る秋の水しろく
いつも留守なりしが新酒のみたり
新酒出そむる鑑きやすく葬せり

□　波柳
むさはかな荷へで新酒頒ちけり

□　華
新酒聞く人々おだやかにつどひ

□　黃丘
秋の水門の山楮の殼が白く

□　田柿
新酒の藏前を通り潮風てきかり

□　鳥堂
ポスト赤々と塗られ新酒に醉てゐり
其秋の新酒なれば人も許せしなり
町に女を持ち新酒提げて通へり

ロカンナの花咲く頃　公州山城町社務所

朝採剝く竹串剝し散る柳
陽に向けて傘の張り貼や渡り鳥
い晴や土廢りつ呼ふ裳の雛
魚鈍く泡太く吐く殘暑哉
鈴持や地者に這る下駄の先
小鳥來るや蟠り柚木に伐る林
鼻性住まぬ一村柳散り初めぬ
蔭の池に映りて秋晴れかな
陸行する電車の窓や柳散る
秋晴や籬の鳥呼ふ隣の子
森に沿ふ汽車の進みや渡り鳥
秋晴や籬印した放ち馬
廢道に殘る小家や散る柳
門前に下戲する兒あり鳥渡る
温泉疲れの皮膚見る妻や柳散る
朝日射す猪の貂間や渡り鳥
岡頭の山に消えたり渡り鳥

新刊紹介

▲教育の實際（一ノ二三）二十五錢 東京日本橋區國文館

▲模範中學講義錄（十月五日發行第一學第一號）　谷頭岡村博士の訓辭一頁大の參考地圖及コロタイプ版を挿入し內容は現今中學校教授細目に依る十數科目を總て嶄新なる教授法によりて親切に詳述せるものなれば獨學にて充分に了解し得べく中學講義錄としては理想的のものなり每月二回發行會費月六十 東京神田三崎町三丁目大日本模範中學會發行

▲ユバナシ（二の一一）色オフセット版にて極彩色を施したる繪噺し深山ありはずやん熊ちやんの喜びさうな繪草紙なり（九錢東京牛込甲良町二三東京出版社）

▲新小說（二二の一一）一瞬間の心もた（長田秀雄）秋日影（田山花袋）夜雲（長田幹彥）探偵（話田中貢太郎）陳情狀（□□）日本出兵論を與論（五名）其他趣味なる記事を載む（三十錢東京日本橋四丁目春陽堂）

▲趣味の友（婦人趣味號）二十五錢東京麻布谷町一八〇其社

▲レコード（一の二）多くの特色趣味を有する新雜誌なり十五錢東京々橋南鍋町九其社

▲生活と法律（一の一）標榜するところ曰く生活改善と法律思想普及、日常法律と生活、各種職業と判例、就職と法律上の質問解答等內容極めて多趣味なり（十二錢東京本郷森川町三ノ三九其社）

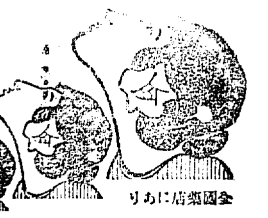
▲山中鹿之助（小金井蘆洲他）永祿年中武士の花形として今猶は人口に膾炙せる山中鹿之助の傳を釋師界の泰斗小金井蘆洲口演にて面白く讀ませたるもの、菊版約五百頁の大冊が一册只の三十五錢とは紙價の昂騰せる今日、迚も一流の書肆くらでは出來ぬ斷品なり（東京日本橋本町三丁目□□）

▲質と法律（八二）七錢東京麴町紀尾井町三□社

商標登錄
ヨほま丸味噌
日本醬油株式會社出張所
電話二四五番

目藥アドラ
瓶は小くも
きゝめは一等

アドラ目藥は工學博士藥學博士高峰先生發見の世界最新鋭藥アドリナリンを主藥とす
どんな眼病にも不思議な程よくきく



全國藥店にあり

小 十錢
大 廿五錢

主治効能
ハヤリメ
ノボセメ
タヾレメ
ホシメ
チメ
ヤニメ
トラホーム
モノモライ
クモリメ
バンソウ膏

東京室町 泰昌製藥株式會社

一陣の秋風は
惡疫流行の兆
コレラ、赤痢の猖獗せる此際
美味と滋養の葡萄酒
赤玉ポートワイン
連續服用が肝心!!
七大醫學博士の賞讚を博せる赤玉ポートワインは確實に胃腸を强壯ならしめ血液を增し皮膚に彈力性を與ふ
朝夕の一杯は百藥に優る

（類似品アり赤玉印ニ御注意）

■血色の惡い人
■産前産後の人
■ヒステリーの人
■精力衰退の人
■病後の人
キツト利目がある

大日本國民中學會

第二十八回 新學期

入會すれば？短日月に容易に完全に中學校卒業の學力を得可し

卒業すれば？貸費生となりて高等諸學校に入るを得て立身の基礎全く定まる

本會は創立十五週年を記念す可く講義に大刷新を加へ面目を新たにして會員を募集す。講義第一、組織第一、學制第一の中學講義錄を低廉の學費を以て與へんとする人は此入會の絕好機を逸する勿れ。本會に入るは諸君が成功の第一步也。本會の門は諸君の必ず進む可き成功の第一關門也

講義見本つき規則書無料進呈

東京神田區駿河臺 電話本局三〇〇二番 三〇〇四番 三七〇七番

大日本國民中學會

大阪商船仁川出帆

◎神戶、大阪行
×信濃川丸 十月十六日 後二時出
×漢州丸 十月 日

◎南浦、神戶、大阪行
△×汕頭丸 十月廿二日 後二時出
×△滿州丸 十月十五日 後二時出

◎木浦、釜山、濟州、那の浦、長崎行
×安東丸 十一月十九日 後二時出
×玄東丸 十月十六日

◎鎭南浦、大連行
×安東丸 十月廿四日 後二時出
×安東丸 十一月十日

◎西湖、濟州、城山浦、西歸浦行（九山出）
宮島丸 十月廿七日 後十二時出

◎安平丸 十月二十日

◎上海、芝罘、打狗行（大連出帆）
基隆丸 十月三十日 後四時出
湖北丸

御注意 ●朝鮮鐵道及び滿洲鐵道と聯絡切符發賣●乘客は一時間前に乘船●×印は本船一等客の御斷り

阪神發賣所 大阪商船會社仁川支店
京城發賣所 內陸運送會社京城支店 電話七〇八番

胃腸最新藥
ヂケスチン
日本藥局方十三ヶ國專賣特許
胃腸疾患、食慾不進、重病後の恢復期、營養補給の目的にて脚の疾患小兒の營養不良等に賞用せらる
常用すれば血液を增し精力を盛んにす
◎說明書進呈
東京本町 藥種問屋 合資會社 圓城商店

月經
流經新藥レスノリン
閉止四五ヶ月以內に於ける本品の效驗作用は確實にして容易く應用の目的を達し其效果他藥に優越す
定價一瓶一圓廿錢 送料卅錢 切手一割增 說明書一袋切手添申越進呈
振替大阪三一三吉番
大阪北區曾根崎上一丁目三六
發賣所 常盤藥院

特製品 ルーデサック
十二個B 十錢 六十錢
並 元鏡女用一個八十錢 ▲月經帶一個七十五錢
十五錢廿個以上一割引 郵券代用一割增
要送料 振替京城三二七番
京城黃金町三 山田文殊堂藥房

日本郵船仁川出帆
◎大連行、太沽（天津）牛莊行
相模丸 十月三十日 正午出
高砂丸 十一月九日
三河丸 十月廿三日
仁川港町一丁目 代理店 堀 商會

尼崎汽船仁川出帆
◎群山、木浦、釜山、下關、神阪行
大有丸 十月十六日 後四時出
神代丸 十月廿三日 後四時出
君が代丸 十月廿五日 後四時出
▲印大阪直行
仁川港町二丁目 代理店 杉 商會

三共同汽船仁川出帆
芝罘、大連行
第二十共同丸 十月廿七日 午後入港 十月九日 後十時出
朝鮮總督府命令航路 阿波共同汽船株式會社
本町四丁目（電話一七三番）
仁川代理店 野口商會
京城收次店 南大門 田口回漕部

朝鮮郵船出帆
本社 京城南大門通 電話一九五二、三三三番
京城取扱店 松原運送店

◎釜山より元山行
京畿丸 十月十六日
成鏡丸 十月三十日
平壤丸 十月廿五日
忠清丸 十月十九日
釜山發

◎元山より各地經由雄基行
穩城丸 十月十七日
鏡城丸 十月廿一日
京畿丸 十月 日
元山發

◎浦汐行（元山より城津經由）
平安丸 十月 日
元山發

◎元山長崎航路
穩城丸 十月廿五日
成鏡丸 十月廿九日
元山發

◎釜山元山航路
慶興丸 十月八日、規定
元山發

◎濟州島行
釜山 十月二十日

◎浦項行（長生浦方魚津甘浦九龍浦經由）
江陵丸
咸陽丸 每日
釜山發

◎鬱陵島行 浦項及各地經由
碧德丸 十月十五日
釜山發

◎濟州島行長承浦巨文島經由
昌平丸 十月 日
釜山發

◎麗水行（各地經由）
統營丸 巨濟丸 每日
釜山發

◎木浦麗水間（麗水にて釜山行接續）
三日目毎に
木浦發

◎木浦より濟州島行（各地經由）
鄕天丸
木浦發

◎西廻、公州丸、慶興丸 十月十八日 十月十七日
木浦發

◎多島海各島行
慶興丸 十月
木浦發

◎木浦行（群山其他各地經由）
晉州丸 十月十八日
麗水丸 十月廿二日
仁川發

◎鎭南浦行（海州其他各地經由）
宗信丸 十月十六日
仁川發

◎海州行（江華島海州經由）
全州丸
錦江丸 毎日
仁川發

◎江華島行（一芝興、大連經由）
江原丸 十月 日
仁川發

◎鞍山製鐵所工事 市街建設著手
▲大正六年度 繼續費三千餘萬圓を支出すべく
▲鑛石試掘を

大氣